

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 株式会社三恵コンサルティング

1. 事業の趣旨・目的

ごみの出し方などの地域特有のルールや防災マップなどのツールを題材として、生活する上で必要となる実践的な日本語の習得を目的とする。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
1 月 31 日	KO フィットネス会議室	・三上憲一 ・原田篤実 ・倉岡ジュリアナはるえ ・真崎智永子	・募集方法の検討 ・参加者見込み数	・どこにどれだけの募集広告を出せばいいのか？ ・募集広告の翻訳言語 ・直接、声掛けが可能な参加者リストの作成 ・役割分担について
2 月 10 日	KO フィットネス会議室	・三上憲一 ・原田篤実 ・倉岡ジュリアナはるえ ・真崎智永子	・参加者リストの確認 ・テキストチェック ・日本語教室開催にあたっての注意事項	・参加者リストを参考にそれぞれのレベルに合うようにテキストの修正、加筆箇所を確認 ・参加者の激減、事故などの想定されるリスクについての対処を検討
3 月 6 日	KO フィットネス会議室	・三上憲一 ・原田篤実 ・倉岡ジュリアナはるえ ・真崎智永子	・参加者アンケートの確認 ・今後の授業について ・実践学習の内容	・以前の参加者アンケートを元に残りの授業内容について話し合う ・実践学習の必要性和頻度、また参加者の感想などを元に残りの実践学習を再検討

3. 日本語教室の開催について

- (1) 講座名 「地域の生活に必要な日本語と活動教室」
- (2) 開催場所 犬山観光センターフロイデ 研修室 2
- (3) 学習目標 ・ごみの出し方などの地域特有のルールについて知る。
 - ・地域の被災者支援にはどんなものがあるのかを知り、適時、利用することができる。
 - ・軽い症状であれば一人で病院に行くことができる
 - ・公共交通機関を使いこなせる
 - ・地震、災害、事故などの時にどの様に対処すれば良いかが分かる
 - ・地域のことを知り、身近な人たちと交流することができる
 - ・自らがリードして 30 分の日本人ボランティアとのフリートークができる
- (4) 使用した教材・リソース オリジナルテキスト、犬山市防災マップ、ごみの出し方ガイド
- (5) 受講者の募集方法
オリジナルの募集チラシを作成、外国人向け求人媒体「チャンス」に日本語教室開催のお知らせ広告を出稿
- (6) 受講者の総数 12 人
(出身・国籍別内訳 ブラジル 6 人、ペルー 5 人、フィリピン 1 人)
- (7) 開催時間数(回数) 35 時間 (全 14 回)
- (8) 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語 (人)	教授者・補助者人数	内容
1	2 月 11 日	3 時間	12 人	ブラジル・ポルトガル語 (6 人) ペルー・スペイン語 (5 人) フィリピン・フィリピン語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 2 人	・ 講座のオリエンテーション ・ 第 1 課「あいさつと自己紹介」 ・ お互いに自己紹介
2	2 月 15 日	3 時間	8 人	ブラジル・ポルトガル語 (5 人) ペルー・スペイン語 (2 人) フィリピン・フィリピン語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 2 人	・ 受講に際してのアンケートを実施 ・ どのようなことに興味があり、どのような場面での日本語を学びたいか
3	2 月 18 日	3 時間	10 人	ブラジル・ポルトガル語 (5 人) ペルー・スペイン語 (4 人)	教授者 1 人 補助者 2 人	・ 第 2 課「道をたずねる」 ・ 実際に地図を使って学習 ・ 今までどこに住んだことがあるか、行ったことがあるか

				フィリピン・フィリピン語（1人）		を発表
4	2月22日	3時間	7人	ブラジル・ポルトガル語（4人） ペルー・スペイン語（2人） フィリピン・フィリピン語（1人）	教授者1人 補助者2人	前回、学んだことの実践をする。実際に地図を見ながら町を歩く。道の訪ね方、道案内、携帯電話を使ったナビの使い方
5	2月25日	3時間	11人	ブラジル・ポルトガル語（6人） ペルー・スペイン語（4人） フィリピン・フィリピン語（1人）	教授者1人 補助者2人	・第3課「買い物①」 ・店員と買い物客の役に別れて会話を練習 ・「あの」「この」「その」などの言葉の意味と使い方 ・第4課「買い物②」 ・実際にレシートを見ながら書いてある意味を説明
6	2月29日	3時間	9人	ブラジル・ポルトガル語（4人） ペルー・スペイン語（4人） フィリピン・フィリピン語（1人）	教授者1人 補助者2人	防災マップを見ながら、避難場所の確認と防災についての学習。
7	3月3日	3時間	12人	ブラジル・ポルトガル語（6人） ペルー・スペイン語（5人） フィリピン・フィリピン語（1人）	教授者1人 補助者2人	・日本の歌謡曲について、歌詞をサブ教材にして学習 ・「上を向いて歩こう」「時の流れに身をまかせ」「世界に1つだけの花」
8	3月7日	3時間	7人	ブラジル・ポルトガル語（3人） ペルー・スペイン語（3人） フィリピン・フィリピン語（1人）	教授者1人 補助者2人	・参加者から要望の多かった「通信販売での物の買い方」について通販カタログNissenを使って説明
9	3月10日	3時間	10人	ブラジル・ポルトガル語（5人） ペルー・スペイン語（4人）	教授者1人 補助者2人	「通信販売での物の買い方」についての続き ・日本の歌謡曲を合唱「上を

				人) フィリピン・フィリピン語 (1 人)		向いて歩こう」「時の流れに身をまかせ」「世界に 1 つだけの花」
10	3 月 14 日	3 時間	5 人	ブラジル・ポルトガル語 (2 人) ペルー・スペイン語 (2 人) フィリピン・フィリピン語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 2 人	・ 第 5 課「仕事を探す①」 ・ 面接の際の電話応対をロールプレイで実施 ・ 履歴書と職務経歴書の書き方
11	3 月 15 日	3 時間	6 人	ブラジル・ポルトガル語 (3 人) ペルー・スペイン語 (2 人) フィリピン・フィリピン語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 2 人	・ 第 6 課「仕事を探す②面接編」 ・ 第 5 課の復習 ・ 実際に模擬面接を実施
12	3 月 17 日	3 時間	12 人	ブラジル・ポルトガル語 (6 人) ペルー・スペイン語 (5 人) フィリピン・フィリピン語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 2 人	・ 第 7 課「病気になったら」
13	3 月 21 日	3 時間	4 人	ブラジル・ポルトガル語 (2 人) ペルー・スペイン語 (1 人) フィリピン・フィリピン語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 2 人	岩永耳鼻咽喉科様のご協力により、問診票への記入や院内案内、外国人の診察経験が豊富な先生のお話を聞く。
14	3 月 24 日	3 時間	12 人	ブラジル・ポルトガル語 (6 人) ペルー・スペイン語 (5 人) フィリピン・フィリピン語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 2 人	第 8 課「街で見かける看板、注意書き」で漢字とその意味の学習

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

■ 3月14日(第5課「仕事を探す①」)、3月15日(第6課「仕事を探す②面接編」)

日本に永く住んでいても、自分自身で仕事を探し、面接の連絡をしたり、履歴書を書いた経験のある人は非常に少ないです。

この授業では、履歴書と職務経歴書のサンプルを見るだけでなく、実際に自分の履歴書を書き、面接を申し込む電話対応や模擬面接などをロールプレイ形式で実践しました。



4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

当初、ごみの出し方などの地域特有のルールを理解できず、自分自身の経験で判断をして分別を行っていた人も、「ごみの出し方ガイドブック」を見ながら、分別をできるようになり、さらには環境への意識が高まったとの声があった。

東北地方太平洋沖地震以降、国内では、防災意識が高まってはいるが、外国人にはあまり浸透しておらず、未だに避難場所や避難所の存在を知らない人も多かった。

この日本語教室を機に、家族で集まる場所を決めた人や自治体主催の防災セミナーに参加したいとの問い合わせが増えたとの話があった。

また、被災者においては、慣れない地域での生活に不安を覚えていたが、日本語教室を通じて、外国人同士の横の繋がりができ、メンタル面のサポートにもなったことは良かったと思う。

(2) 学習者の習得状況

当初は、質問が少なかったが、参加者同士が仲良くなってくると、質問が増え始めた。

座学で日本語を学習するだけでなく、実践で使う場を提供したことで、授業の予習、復習をしてくる参加者も出始め、学習意欲が向上していった。

レベルにバラつきがあったが、3月頃になると参加者全員が平均的に発言し、自分の意見を言えるようになった。

(3) 日本語教室設置運営の効果、成果

外国人コミュニティの中でのみ生活し、仕事以外で日本人と接点を持たない外国人は多い。

この状況は、仕事を持たない外国人主婦層に特に顕著であり、情報収集力や日本での生活能

力は著しく低いと言わざるを得ない。

また、過去に何度も日本語教室に通った経験のある外国人も多くいるが、基本的な学習の反復に意欲も下がり、途中で行かなくなったという声も多い。

今回のように、生活に密着した実践的な日本語教室は、参加者の学習意欲の維持、向上にも役立ち、どれくらいの日本語が生活する上で必要かの指針ともなる。

また、「生活に必要な」という意味では、地域ごとに異なる外国人の問題やニーズに対処するため、柔軟なテキスト構成が必須であり、オリジナルテキストと自治体にある防災マップやごみの出し方ガイドなどを使用したことは、有益であったと考える。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

授業を行った犬山国際観光センターには、犬山国際交流協会があり、日本語教室を通じて、外国人の問題や求める支援などの情報について意見交換ができた。

(5) 改善点, 今後の課題について

① 現状

- ・参加者の学習意欲の維持に非常に苦勞をした。
- ・参加者の日本語レベルにもバラつきがあり、どのレベルに合わせるかが難しい。

② 今後の課題

- ・学習意欲の維持のためにテキストの再校正
- ・土日勤務や残業、シフト変更などに出席率が大きく左右される、仕事を持つ外国人が参加しやすい場所や時間の確保

③ 今後の活動予定, 展望

教室を継続して欲しいとの希望者が大半であるが、会場代、講師代、交通費など、金銭的な問題が多い中ではあるが、5 月頃には、他団体との連携も含め、何らかの形で再開をしたいと考えている。